白色テロを粉砕し白紙撤回まで斗いぬけ

マルクス主義学生同盟(中核派)
マルクス主義学生同盟(中核派)明大支部

体育会の暴力的学園占拠を許すな！

一月三十日、体育会右翼学生の暴力によって明治大学は支配された。六十余日にわたって築かれてきたバリケードが六百名近くの右翼学生の手によって撤去され、体育会学生の監視のもとに授業が再開されたのである。

この事態こそ、学校当局＝法人理事会が授業料値上げを行なった最も根底的原因の露呈した姿なのである。すなわち、学校当局は二十八日和泉団交の場において、授業料値上げにともなって明治大学の教育改悪政策を提示することを明言した。そしてその解答が今日の事態であったのだ。マスプロ教育に端的に示されるように、資本に従順な人間を生み出すことのみ目的にした今日の明治大学の教育――そしてその拡大再生産を目的とした授業料値上げなのだ。従って、そうした授業料値上げに反対することをもって、学生と学問不在の明治大学の変革を目指すことこそ学校当局＝理事会にとって圧し殺さねばならなかったのだ。

学校当局＝理事会は、体育会右翼学生の暴力によって現状変改を目指す学生を屈服させようとする最大の理由はこゝにある。従って我々は右翼体育会の暴力的支配を断固としてはねかえしていかなくてはならないのだ。学費値上げに反対する全ての学友は、体育会の暴力的支配をはねかえす斗いに決起せよ。

〈今日の明大を生み出したのはなにか〉

このような明大の腐敗を生み出したのは、前述したような日本帝国主義による反動文教政策そのものが生み出したものである。だが我々は、そのような事態を明大において許したものが、一部全学斗争執行部＝ブント系、明大においての指導部による学校当局、理事会との妥協体制によるものであることを同時に指摘しなければならない。

明大ストライキ斗争の最中に至るところで露呈した反戦路線、右翼路線こそが、今日の明大の腐敗と体育会の横行を生み出したのだ。学校当局、理事会、代官隊国家権力との癒着を、大衆不信から生ずる自らの孤立化の中でおびえ、放棄したのがブント執行部であったのだ。

だが、現在の明大当局は、かゝるブントとの妥協体制をうぶち破ることもって「教育の改善」（＝学生の全面的屈服）を強いてきているのである。

〈勝利へむかって更に前進しよう〉

全都、全明治の学友諸君！

われわれは、今回のストの重大局面にあたって、今こそ自らの力で勝利への道を切り拓いていかなければならない。

われわれは、オール、理事会、体育会の暴圧の中で怒りを燃えたたせている全明治の学友の決起にこそ勝利の道があるのだ。同時にわれわれは、その斗いを推し進めるにあたって、右翼の暴力に屈せず斗いぬく断固として斗いぬき、今日の明治大の腐敗し切った姿の根底的変革にむかって突き進む、執行部、ヨコ部隊の孤立を粉砕として宣言しなければならない。

帝拓無人の法人理事会の弾劾の斗いを断固として貫徹せよ！

体育会の暴力を許すな！

明治大学を再度、学生の手に奪還せよ！

学費値上げ粉砕！　学生の自治権を防衛せよ！